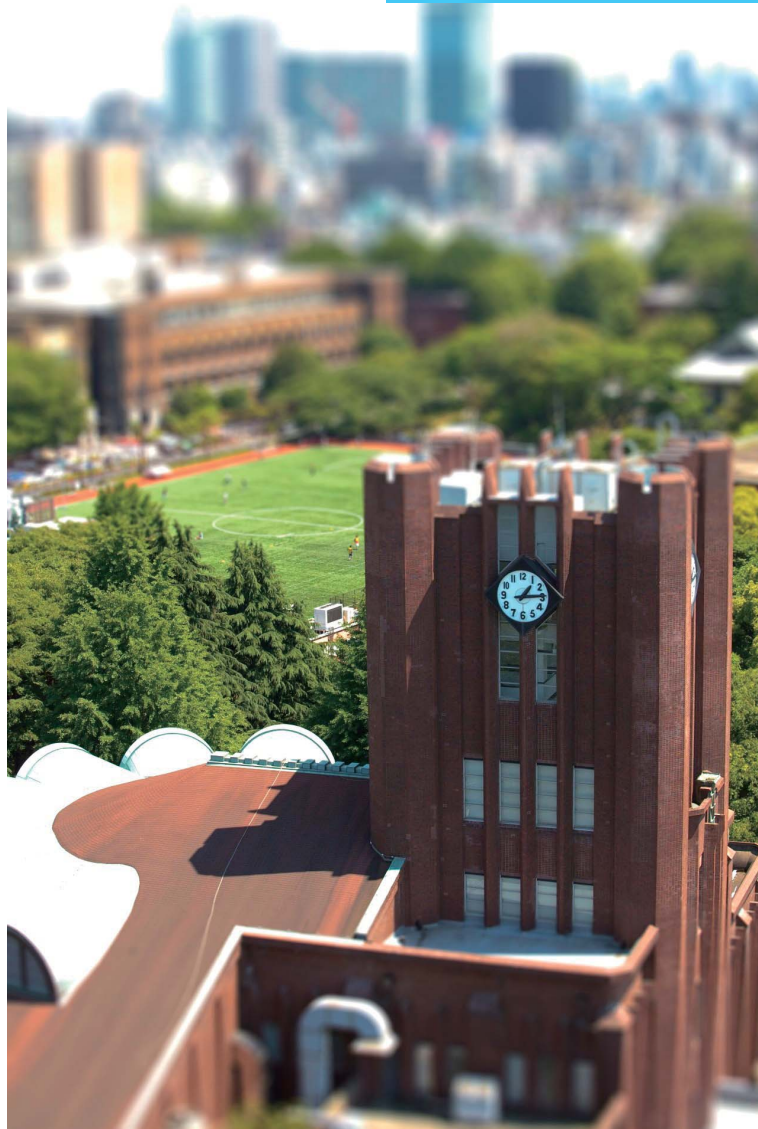


学内広報

for communication across the UT



特集：■ご存知ですか？ 安田講堂のエトセトラ

2011.2.22

No. 1409

誰もが知っているけれど、誰もが深くは知らない安田講堂。今回の特集はそんな「東大の象徴」の魅力をくまなくご紹介いたします。時計台裏や便殿など、教職員・学生でさえ、普段は見ることを許されないディープな場所にご案内しましょう！



概要

安田講堂は、旧安田財閥の創業者安田善次郎氏の寄附により大正14年に竣工しました。昭和40年代の学生運動を経て、講堂としての機能は失われていましたが、平成2年の大講堂の改修工事をはじめとするさまざまな改修を経て今日に至ります。

竣工：大正14（1925）年7月6日
 鉄筋コンクリート造4階建
 一部地階、塔屋9階付き
 高さ：39.7m（9階建の部分）
 面積：6990㎡（約2115坪）
 講堂 座席数：1144席
 （内訳）3階728席 4階416席
 （竣工時）1738席
 設計：工学部建築学科 内田祥三教授
 施行：合資会社 清水組

2 銘板



30万円以上ご寄附をいただいた方（貢献会員以上）のお名前を掲示しています。

3 タイル



改修部分？

竣工時は、粘土を成形し乾燥焼成する湿式タイルが普通であった時代にはめずらしい乾式（プレス）成型の溝付きタイルが使用されていました。改修の際、タイル基材に使用されている坯土を特定し、当時の焼成温度に近づけ、竣工時のものに近いものとなるよう工夫されたとか。

4 椅子



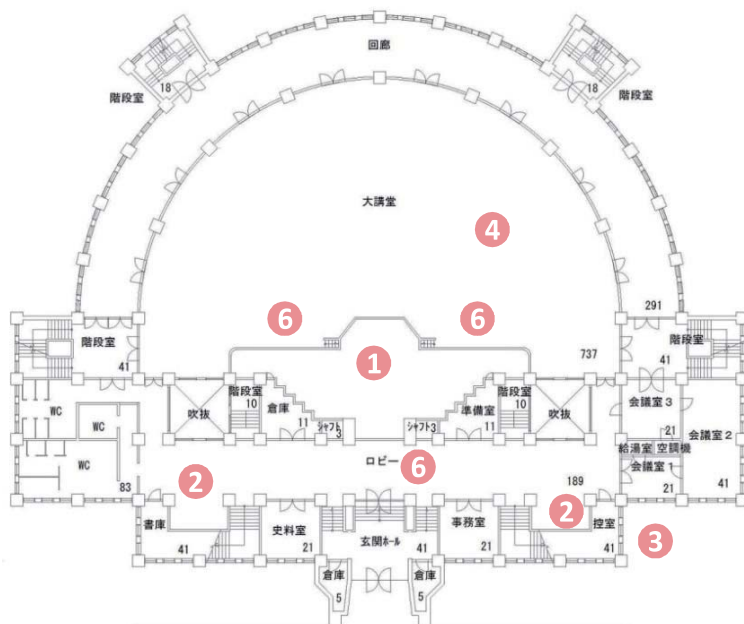
連結椅子は創建時に開発した会社が製作図を保管していたため、正確に復元されたとのこと。脚金物の中央にかつての帝国大学の「大學」の文字が刻まれています。銀杏のマークに変えようという意見もありましたが、当時のままとりました。

1 舞台



講堂は左右対称になるように設計されていました。ただ、舞台奥の中央部の、両側の壁に貼られた紺色の布に刺繍された薔薇の花をモチーフにした装飾だけが、よく見ると同じ向きに並んでいて、左右対称ではありませんでした。こちらも改修時にそのまま復元されました。

3F



5F~ 塔内



階段を上ると扉が見えてきます。ブザーを鳴らして下さい。



大学史史料室へは、4Fの看板のある扉を目指します。
(普段は講堂が閉まっているため外からここまで辿りつきづらい！詳しい行き方は大学史史料室のHPを参照。)

大学史史料室



大学にまつわるさまざまな史料が保存されています。閲覧日は毎週火・水曜日。
(要事前連絡)



通常は関係者以外は入れませんが、今回は特別に…史料室の横の階段をさらにあがります

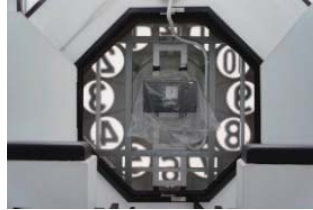


おどり場にでてもめげずに上がります。眼下には講堂の屋根が。



更に細い階段を上ると…

塔時計



塔時計にたどりつきます！
安田講堂が竣工したときは、水銀式の振り子の親時計が塔時計を動かしていました。今はクォーツ発振式の時計に改修されています。時計の文字盤の直径は2000mm (2m)、針はアルミ製。

5 便殿



便殿とは、行幸・行啓の際の天皇や皇后の臨時的の休息所のこと。当時東京帝大には正式な便殿がなく、安田善次郎氏から大講堂と便殿の建設資金として寄附があり安田講堂は建てられました。便殿は安田講堂のなかでも最も重要な場所の一つといえます。天井のみ、ちらっと公開！

6 壁画



「静意」の図 (4階廊下)



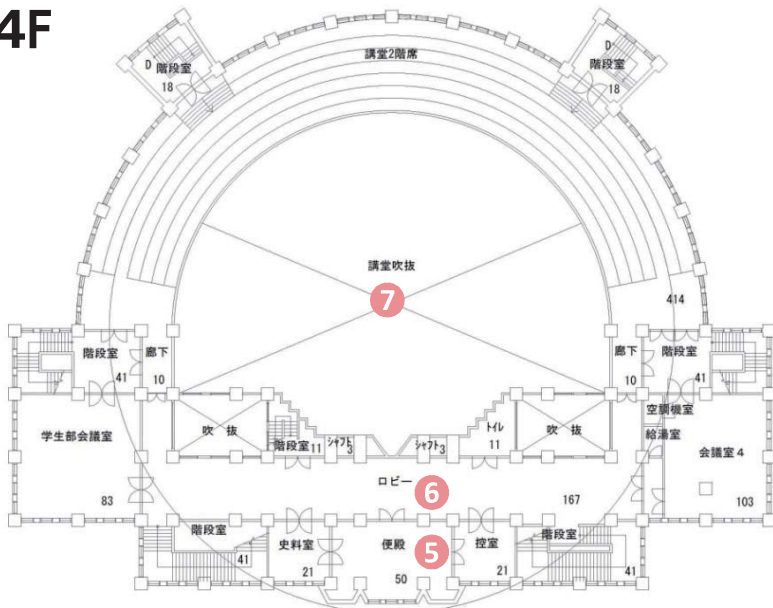
「動意」の図 (3階廊下)



左側が「湧泉」、右側が「採果」

舞台と3階・4階の廊下にある壁画は小杉未醒によるもの。舞台の壁画の左側が「湧泉」、右側が「採果」。時代と場所を超越して、人間と自然の融和を主眼として構図されたとのこと。

4F



7 天井



円錐を縦半分に割った形の屋根の底部は窓となっており、自然光を講堂内部に取り入れる構造になっています。竣工時に使われていたガラスの生産が既に中止されていたため、何種類ものガラスを組み合わせてはめてみて、最も光の状態が近くなった、スタンドガラスに使用されるダイヤガラスに型ガラス梨地を重ねた組み合わせで修復されたとか。お日様が陰ると講堂内がわずかに暗くなります。

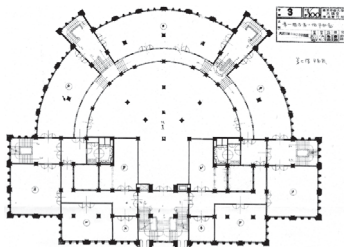
安田講堂 いま・むかし

簡易年表

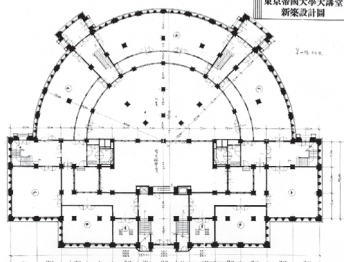
大正10年5月	安田善次郎氏、講堂と便殿の寄附を申入れ	昭和18年11月	学徒出陣壮行会	昭和46年5月	事務局の一部が復帰
12月	概略設計図等が完成	21年11月	憲法公布記念式典	58年5月	大講堂利用計画懇談会を設置
12年9月	関東大震災	39年10月	初めて公開講座を開催	63年9月	安田善次郎氏ゆかりの芙蓉会4社からの寄附を受け入れる
13年3月	工事再開	42年4月	理論物理学者ハイゼンベルグ博士講演	平成元年1月	改修工事着工式
14年7月6日	竣工式	43年3月	医学部学生処分に抗議し、学生集団が正面玄関を占拠 卒業式等は中止	2年3月	改修工事完了 内田祥三第14代総長御令室、内田み祢氏からの寄附を受け入れる
15年1月	使用規程発表 本学の挙行する式典以外に、学術教育にかかわる機会にも使用が可能とされた	43年4月	正面玄関に学生集団が押し入り、入学式は混乱のうちに挙行 占拠の学生を警察力導入で排除 総長が所信表明 講堂を残留学生集団が占拠封鎖 事務局は講堂外の建物に分散	6年7月	便殿等改修工事完了
3月	創立50回記念日式典	6月		8年12月	文化財保護法に基づき、登録文化財となる
昭和2年2月	大正天皇奉悼式挙行	7月		10年11月	大講堂音響・映像システム改修工事完了
3年3月	卒業式挙行	44年1月	警察力の導入により占拠学生を排除		

昔の設計図

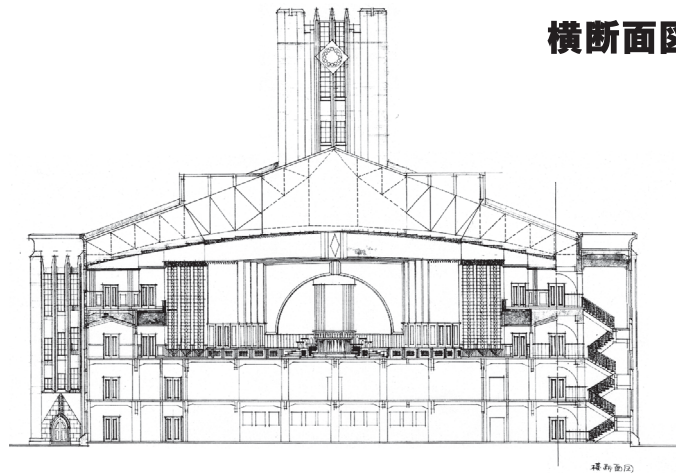
3F



4F



横断面図



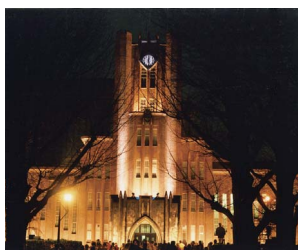
安田講堂で開かれた特別イベント



写真：総合研究博物館提供

学問のアルケオロジー

1997年10月から12月に「東京大学創立120周年記念 東京大学展—学問の過去・現在・未来」が開催されました。会場の一つである安田講堂の中には『学問のアルケオロジー』と題し、実験器具・教育教材などの学術標本が展示されました。また『建築のアヴァンギャルド』と題し、明治期の華やかな教育施設を図面より再現した雛型やデジタル画像による復元なども展示されました。



写真：大島一郎さん提供

Lux Sophiae (知の光)

2000年12月31日から1月1日にかけてLux Sophiae (知の光) が開催されました。大晦日の夜から「動く東大」と題する研究発表が行われました。また新世紀到来の瞬間に安田講堂がライトアップされ、総長からのメッセージ「来るべき世紀に向けて」が伝えられました。講堂前広場から銀杏並木まで1600名もの参加者で埋め尽くされたとのこと。



講演終了後にふるまわれた、シャンパンのグラス。飲んでみたかった！



情報求ム！ 車寄せのレリーフ



安田講堂の車寄せの内側には左右対称に不思議なレリーフがあります。猫？それとも？？そして誰がデザイン？ご存じの方、教えてください！

<参考資料>

東京大学大講堂安田講堂（東京大学総務部総務係 編）、積算資料2009年4月号（（財）経済調査会 編）、学内広報604号、1107号、1206号、東京大学新聞2002年6月4日付 No.2175

東京大学創立120周年記念東京大学展—学問の過去・現在・未来—[第3部]『建築のアヴァンギャルド』（（財）東京大学出版会）

*通常安田講堂は公開していません。ご紹介したところの中で、管理者以外入れないところもありますので、ご承知願います。

お問い合わせ：本部広報課 藤本（内）22031

NEWS

一般ニュース

本部環境安全課

本部防災訓練、実施される

一般

12月21日(火)に平成22年度東京大学本部棟等防災訓練を実施した。今回は、昨年度対象建物であった本部棟、第2本部棟に加え、学生支援センター、本郷角川ビルなど、キャンパス内外を問わず本部に所属する全ての教職員を対象とし、大きな地震が発生したという想定で避難訓練及び安否確認訓練が行われ、引き続き、災害対策本部活動訓練が行われた。

災害対策本部活動訓練には、濱田純一総長をはじめ、役員全員のほか、多くの本部各部教職員が参加した。総長が震度6強であったという情報を受け、災害対策本部の設置を宣言し、山上会館に災害対策本部を設置するにあたり、応急危険度判定士による建物の被災状況の危険度判定訓練が行われた。その後役員等で編成された災害対策本部員による意思決定訓練、教職員約100名が総務・広報班、警備誘導班、物資調達班、施設環境班の4班に分かれ、それぞれ各部局への情報収集訓練、各門までのルート調査・報告訓練、物資配給訓練、インフラ確認訓練等を行った。



濱田純一総長による災害対策本部設置宣言



災害対策本部意思決定訓練の様子

部局 ニュース

大学院工学系研究科・工学部

第一回協定校訪問プログラムを実施

部局

9月21日(火)から29日(水)までの日程で、工学部学生5名と工学系大学院生6名、計11名がスウェーデン、ストックホルムのスウェーデン王立工科大学(KTH)および英国、ロンドンのインペリアル・カレッジ・ロンドン(ICL)を訪問した。

当プログラムは短期間の留学体験により国際的な学術環境に触れ、人的交流を通じて留学の意義を考え、かつ自己研鑽の楽しさを実体験し、長期留学へのファーストステップとするという趣旨で、当研究科国際交流室が企画した。実際、現地の学生と共に行動し、講義・ゼミへの参加、図書館の利用、学生の自宅やアパートへの宿泊、学食での多くの学生を交えた食事など、コミュニケーションを通して留学生生活を体験することができた。

訪問校は当研究科と関わりの深い EU 圏の協定校を第一候補とした。また、訪問時期は東大が学期中でなく、訪問校が学期中で、東大生が参加するインターンシップやゼミ合宿の日程から比較的外れている時期、すなわち9月の中旬から下旬に決定した。これには日本人学生に行なった大学訪問に関するアンケートの結果も参考にした。

スウェーデン王立工科大学 (KTH) には、事前に国際交流室を通じて、英語で行われる講義やワークショップに東大生が参加できるように依頼した。また KTH の日本語担当教員に、日本語を勉強している学生で日本人学生のホストをボランティアで務めてくれる学生を募っていただいた。その結果、東大生 11 人全員がそれぞれ KTH の学生とペアになり、全日程の行動を共にできるようになった。また、KTH の学生も東大生と友達になり、日本語で話したり、日本のことを聞いたりできるので双方にとってよい学びになった。

東大生は昼間の勉強だけではなく、黄昏時の学生イベントパブでの親睦会、学外にある専門分野の施設や建築物見学、また週末の旧市街見物などほぼ全行程をホスト学生とともに行動した。ストックホルム滞在 5 泊のうち 3 泊を学生の自宅またはアパートに宿泊させていただいた。



スウェーデン王立工科大学での学生交流会



スウェーデン王立工科大学の学食での昼ごはん

次に訪問したインペリアル・カレッジ・ロンドン (ICL) では、国際交流室を表敬訪問し、東大の Students' Delegation として歓迎を受けた。ICL の国際交流ボランティア学生と日本語教室の学生が学内の案内と市内観光案内をしてくださった。日本人学生は事前に訪問したい研究室に連絡し、教授にお話を伺うなど短い滞在期間を有効に活用した。



インペリアル・カレッジ・ロンドンの国際交流室

プログラム終了後行なったアンケート調査では、学生生活の実体験、現地学生との深い交流、留学の雰囲気を味わったことへの喜び、留学のモチベーションが上がったこと、自分の現在の英語力と留学に必要な英語力の差を認識したことなど様々なコメントから留学への前向きな姿勢が窺えた。

第一回協定校訪問プログラムは、参加学生の高い満足度とプログラム目標の達成をもって終了することができました。ご協力くださった方々にお礼申し上げます。

大気海洋研究所



秋の所内厚生行事、写真コンテストと卓球大会を開催

11月15日(月)～30日(火)に所内厚生行事の一環として写真コンテストを開催した。大気海洋研究所に関係する方々から広く写真を募り、大気海洋研究所1F エントランスホールに専用の展示場を設けて展示を行った。展示期間中、「空・海部門」、「調査・研究活動部門」など5つのテーマごとに、見学者の投票により投票賞を決定した。また、所長が選ぶ所長賞も設けた。写真コンテストは、旧海洋研究所時代を通して20年以上行われていない中で手探りで開催であったが、今回70近くの応募作品が集まり盛況であった。どの作品も見応えがあり、展示期間中は大気海洋研究所に出入りをする多くの方が入り口で足を止めて作品に見入っている姿が見られた。



多数の力作がそろった写真コンテストの展示風景

また、11月17日（水）～12月3日（金）には、所内厚生行事の一環として卓球大会を開催した。中野キャンパスにあった旧海洋研究所では毎年ソフトボール大会を行うことが恒例となっていたが、今年度は柏キャンパスに移転し、旧気候システム研究センターも一緒になった新研究所での初のイベントとなった。柏キャンパス内には昼休みや夕方に教職員が気軽に利用できるグラウンドが無いので、ソフトボール大会の代わりに新たに企画されたのが、新研究所の広いエントランスホールを利用した卓球大会である。

大会では研究部門ごとに団体戦のチームを作り、全12チームによる予選リーグと決勝トーナメントが行われた。試合中は和気あいあいとした雰囲気に参加者の交流が深まり、最上階（7階）からも俯瞰できる吹き抜けのホールは歓喜の声と悲鳴が響き渡る活気あふれる場となった。物性研究所と新領域創成科学研究科から卓球台をお借りするというご近所付き合いもあり、新研究所ならではのイベントが誕生した。



普段の研究所生活とは一味違う卓球を通じての交流

12月19日（日）13時から18時ごろまで、安田講堂において、東京大学 E.S.S.（学生団体）による第5回東京大学 E.S.S. 杯争奪英語弁論大会が開催された。

本大会は、執行部学生13人（教養学部1、2年生）を中心に、東京大学 E.S.S. のメンバー（130名程度）で運営している。

大きなコンセプトとして、「世界に通用するパブリックスピーキングの場を提供」を掲げ、他にも「年齢・国籍を問わず幅広く出場者を募集」「聴衆をも巻き込んだ全員参加のイベント」などを主要な目標とし、下記プログラムを実施した。

- (1) オープニングセレモニー
- (2) プリペアドスピーチセッション
- (3) インプロンプトスピーチセッション
- (4) クロージングセレモニー及び表彰
- (5) レセプション（於：山上会館）

事前の予選を勝ち抜き出場したスピーカーは計10名で、審査員には沼田貞昭氏（鹿島建設顧問・国際交流基金日米センター特別参与）をはじめとする著名な6名をお招きした。審査の結果、山品せしりあさん（加藤学園暁秀高校）が第一位に選ばれた。審査員の一人である国際弁護士の W.Wakely 氏からは「めまぐるしく国際環境が変化中、このような場をもつことは、私達の現在と未来、そして私達と世界との架け橋ともなりうる有益なものだろう。10名のスピーカーの姿はみな素晴らしかった。」との審査評をいただき、今大会主催団体である東京大学 E.S.S. 代表の成清俊介君（文科一類2年）からは「幅広い方々からの支援があって私達の思いが実現できたことに心から感謝したい。どのスピーチも、この壇上で、それぞれの声によって聴衆の心に届けられた、大変素晴らしいものでした。」との総評があった。

今回、東大一年生の出場枠を1つ確保して予選を行い、80人超の東大 E.S.S. 一年生全員から本多正俊志君（理科二類1年）がスピーカー（登壇者）として選ばれ、「The Link Between Bioethics and Global Leadership（生命科学とグローバルリーダーシップ）」というテーマのもと、濱田純一総長の目指す「国境なき東大生」の一つのあり方を聴衆に示した。さらに初めての取り組みとして、登壇者の了解を得て Ustream によるライブ（動画）配信を実施し、北京大学賈蕙萱教授をはじめ、来場が難しい多くの方に観ていただき、好評を得るとともに、コンセプトに掲げた「世界へ通ずる場」への大きな前進を遂げた。

なお、当日の来場者数は、昨年と同様に300人を超え約425人となった。



クロージングセレモニー及び表彰

情報基盤センター

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第2回シンポジウム 開催報告

情報基盤センターでは、1月12日(水)、13日(木)に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第2回シンポジウム」を、独立行政法人 理化学研究所 計算科学研究機構(神戸)で開催し、179名の参加者(大学103名、独法等研究機関33名、企業他43名)を迎えて盛会のうちに行われた。

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」(以下、当拠点)とは、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータを所有する8つの共同利用施設を構成拠点とし、本学情報基盤センターがその中核拠点を担う「ネットワーク型」共同利用・共同研究拠点である。各年度で共同研究の公募・採択が行われ、当拠点との共同研究を実施する。

今回のシンポジウムは、平成22年度公募型共同研究に採択された全37課題の中間報告を兼ねており、当拠点の課題審査委員による審査と併せて、各課題の発表後には委員に限らず一般の参加者も交えた活発な質疑や意見交換が行われた。

シンポジウムの開会では、石川裕総括拠点長(情報基盤センター長)の挨拶に始まり、岩本健吾文部科学省研究振興局情報課長の来賓挨拶に次いで、平尾公彦理化学研究所計算科学研究機構長より「京コンピュータと計算科学研究機構」の表題にて基調講演が行われた。

また、初日の全セッション終了後には同機構研究員の案内により施設見学も行われた。

閉会では、中島浩課題審査委員長(京都大学学術情報メディアセンター長)からシンポジウム全体のサマリーを含めた挨拶があった。

当シンポジウムのプログラム、基調講演スライド、および、講演予稿(中間報告書)の正式版は次のURLから参照可能である。

当シンポジウムホームページ

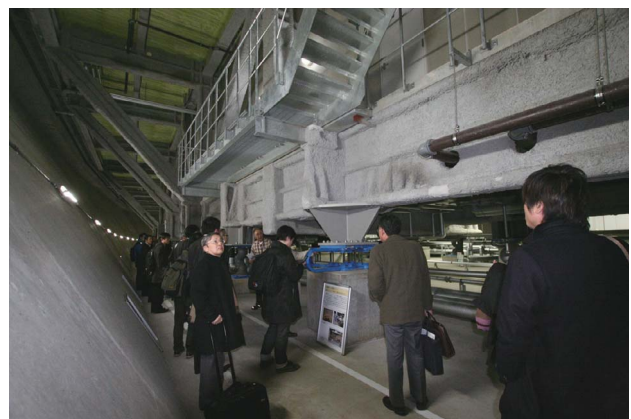
<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/sympo/>



基調講演を行う平尾公彦理化学研究所計算科学研究機構長



シンポジウムの様子



理化学研究所計算科学研究機構の施設見学の様子

地震研究所

職員研修会を開催

地震研究所職員研修会が1月24日(月)～26日(水)に行われた。この職員研修会は技術系職員の技能向上を目的として毎年地震研究所が開催するもので、他大学の関連分野技術職員にも参加を呼びかけ、発表者には本学から旅費が支給される。企画・運営を技術職員による実行委員が主体として担っている。今回も他大学からの14名を含む計40名の技術系職員が参加して、1日目と3日目は技術発表と特別講演が、2日目には3グループに分かれてのグループ研修(講習)が行われた。

技術発表では深海や極地を含む国内外での野外観測調査や機器開発・データ処理システム、観測技術の変遷などの多岐にわたる12件の話題が紹介され、聴講の教員等も交えての活発な質疑応答があった。2名の教員による特別講演では、「西南日本に発生する様々なスロー地震」と「なぜミュオンで火山内部を見ることができるようになったのか」についての包括的でわかりやすい解説が行われた。2日目のグループ研修のテーマは昨年度に引き続いて、所外専門家による「ノイズのはなし」、資格取得に向けた「第二種電気工事士」、インターネット技術を理解するための「ネットワーク講習」があり、日常業務に直ちに役立つ内容であるだけに真剣な表情で受講する姿が多く見られた。毎年参加する他大学からのメンバーも多く、休憩時には活発に情報交換する姿が見られた。

1日目の夜には所内ラウンジで懇親会が開かれ、また3日目午後にはオプションの所内ラボツアーも行われた。全日程を修了した37名には修了証が授与された。



技術職員による技術発表



「第二種電気工事士」グループ研修風景



修了証の授与

大学院工学系研究科・工学部

文化財防火デー消防演習行われる

1月26日(水)12時30分から13時まで、「文化財防火デーに伴う消防演習」が工学部列品館(登録有形文化財)にて行われた。今回の消防演習は、東京消防庁本郷消防署からの協力依頼により行われたもので、列品館自衛消防隊の消防訓練も兼ねて行われ、列品館に在勤する教職員、本郷消防署消防隊および本郷消防団が参加した。

訓練は、列品館の外周で発生した火災を警備員が発見し防災センターに通報するという想定で訓練が開始された。訓練用の煙が焚かれ、119番通報の訓練とともに、自衛消防隊長の指示により、避難訓練や消火器による初期消火訓練が行われた。本郷消防署からは、はしご車1隊、ポンプ車2隊、指揮隊1隊、消防団1隊が出動した。屋上に逃げ遅れたという想定で、萩谷昌己情報理工学系研究科長と研究科長秘書の高原友子さんがはしご車により救出された後、列品館に向かって約30秒間の一斉放水を行い、「文化財防火デー」についてのアピールを大々的に行った。

演習直前に消防署による広報活動が行われたことと、昼休み中に実施されたこともあって、見学に訪れた学生

や教職員も多く、消防隊員による本番さながらの演習の様子や、はしご車などの消防車両を携帯電話のカメラなどで撮影する姿が見受けられた。

「文化財防火デー」は、昭和24年1月26日に奈良県法隆寺の金堂で火災が発生し、白鳳時代に描かれた十二面壁画が焼損したことをきっかけに、昭和25年に文化財保護法が制定され、昭和30年から1月26日が文化財防火デーと定められた。本郷消防署では、この文化財防火デーに合わせて、放火火災の予防や自衛消防訓練の実施の呼びかけを目的に消防演習を行ってきたが、57回目を迎える今年も、工学部列品館のほか「根津神社」「吉祥寺」でも演習が行われた。



訓練用消火器を用いた初期消火訓練



はしご車による救助訓練



消防隊による一斉放水

地震研究所

部局

2010年度地震火山災害予防賞の授与

地震研究所では今年度から、地震火山の観測・研究や防災の分野で、その技術的側面で顕著な功績のあった者を、地震火山災害予防賞として表彰することにした。これは、財団法人震災予防協会が2010年末に解散し、その資産が本学に寄附された際に、同協会がこれまで震災予防協会賞として行ってきた表彰を引き継ぐために設置されたものである。震災予防協会は、地震研究所と兄弟のような歴史を持つ。1891年濃尾地震の後に文部省に震災予防調査会が設置され、1923年関東大震災の後に地震研究所と震災予防評議会（震災予防協会の前身）とに生まれ変わった。共同利用・共同研究拠点としての地震研究所の役割を鑑みて、地震火山災害予防賞の受賞者の所属・身分は問わないこととした。

2010年度の地震火山災害予防賞は、北海道大学大学院理学研究院の岡山宗夫氏（嘱託職員）と京都大学防災研究所の園田保美氏（技術職員）に決定した。岡山氏は、北海道大学地震火山研究観測センターの地震・地殻変動観測施設の設置・維持ならびに後進の指導の功績が、園田氏は京都大学防災研究所宮崎観測所を中心とする地殻変動観測機器の製作・観測の継続ならびに19世紀の水平振り傾斜計の復元への功績が、受賞の対象となった。1月26日（水）に、地震研究所職員研修会に引き続いて授賞式が開催され、平田直所長から賞状（盾）が贈られた。



授賞式後の写真：右から平田直所長、園田保美氏、佐竹健治副所長（選考委員長）



岡山宗夫氏には北海道大学にて受賞して頂いた

地震研究所

新燃岳噴火の合同説明会を開催

霧島火山群の新燃岳では、1月26日（水）より中規模な噴火が発生しており、数回の爆発的な噴火も観測されて、風下にある地域では噴石や火山灰などによる被害が拡大している。霧島に観測所を持つ地震研では27日から特集のウェブサイトを立ち上げて、この噴火に関する最新の情報を発信するとともに、連日、100件近い問い合わせに対応している。（http://outreach.eri.u-tokyo.ac.jp/eqvolc/201101_shinmoe/）

噴火の推移を予測するのは一般的に困難だが、新燃岳は数百年ぶりのマグマ噴火、しかも参考にできる事例は一例しかなく、地震学、岩石学、測地学などのデータを統合して考察を進めている。噴火翌日の27日には現地に入り、他大学や他研究機関と協力して、噴火噴出物の採取や観測点の増強を行った。

その報告と最新の知見を広く情報公開するために、30日15時から地震研にて報道関係者を対象とした合同説明会を実施した。本所火山噴火予知研究センターや数理系研究部門等の火山学を専攻する教員により、噴火の現状と今後の推移が解説され、その後、質疑応答が行われた。

100名近くが収容できるセミナー室には4台のテレビカメラと多くの記者が詰めかけ、満席での開催となった。その映像は中継車からの電送によって即座に同日夕方のニュースで放映されたほか、新聞各紙に取り上げられ、災害情報の発信の重要性が改めて認識された。



東京大学地震研究所（撮影：中田節也）

1月26日から断続的な噴火を始めた新燃岳



新燃岳噴火に関する合同説明会に詰めかけた報道関係者



解説をする武尾実教授（右）と中田節也教授（左）

先端科学技術研究センターは設立以来、4つの基本原則「学際性」「流動性」「公開性」「国際性」を掲げて研究活動を行っている。特に「学際性」は、幅広い学問領域から研究者を招へいすることで、複雑化する諸問題を多面的に捉えることを可能にし、「学術の発展と社会の変化から生じる新たな課題へ機動的に挑戦し、人間と社会に向かう先端科学技術の新領域を開拓することによって、科学技術の発展に貢献する」という先端研のミッションステートメントとも深く結びついている部分である。

その一方で、忙しい研究者がただ単に同じ研究所に在籍しているだけでは学際性、有機的な融合はなかなか生まれない。そこで、ひとつのきっかけ作りとして毎月、「教授会セミナー」が開催されている。これは隔週で開催されている教授会総会の前の時間を使い、様々な先生方にその研究内容をご紹介いただくものである。プレゼン時間15分、質疑応答5分という限られた時間ではあるが、その中で専門外の教員にも関心をもってもらえるように、テーマ選びやプレゼン方法に工夫が見られることも多く、凝縮された内容になっている。

セミナーはその日によって、1本のこともあれば2本のこともあるが、例えば12月はバリアフリー分野の研究者から補聴器と「聞こえ」に関する話（大沼直紀客員教授）、システム生物医学の研究者からはアジアのがんに関する話（赤座英之特任教授）、と全く違う領域の内容であった。また2011年からは、短期で先端研に滞在する外国人研究者にもこの場を利用してセミナーをお願いすることになった。1月は先端研の西成活裕教授と共同研究をしているミラノ＝ピッコカ大学のステファニア・バンディーニ特任教授に”From Multidisciplinary to Multicultural: the Challenge of Complex Systems”というタイトルでお話いただいたが、その内容自体が学際的で先端研らしく、非常に興味深いものであった。



2011年1月、Stefanie Bandini 特任教授のセミナー

これら多岐に渡る教授会セミナーに共通したテーマを与えたとしたら、それは「いかに伝えるか」ということなのかもしれない。まずは同じ組織内に自身の研究内容を伝え、モットーとする「学際性」を実現するためにコラボレーションの可能性を探る、ということ。さらには、社会に向けて発信をしていくということ。その試みとして2005年以降の「教授会セミナー」は原則すべて、先端研のウェブサイトで動画（またはポッドキャスト）を提供している。

教授会セミナー
The Faculty Seminar

先端研では、毎月1回「教授会セミナー」と題し、先端研の研究者が自身の研究について発表する場を設けています。先端研に所属する研究者間の情報公開と意見交換がその目的です。本サイトでは、その内容を公開しています。

2006年度からはストリーミング配信に加え、音声もポッドキャスト配信しています。ポッドキャストでお聞きになる場合は、下記リンクよりポッドキャストページをご覧ください。

ポッドキャスト配信
ビデオライブラリー

2005 2006 2007 2008 2009

2010年11月10日



「エビゲノムと生活習慣病」
教授 滝井 寿郎
 音声 (mp3: 17.4MB / 約20分)
 ストリーミング (約19分)

2010年10月13日



「科学者コミュニティの研究協力に関する実証研究：生命・材料分野におけるマテリアル・トランスファ」
教授 馬場 晴彦
 音声 (mp3: 23.9MB / 約27分)
 ストリーミング (約27分)

2010年9月8日



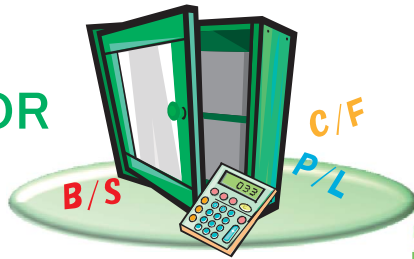
「次元を下げて考える ～高次元データに潜むシステムの本質的構造の推定～」
准教授 矢入 建久
 音声 (mp3: 14.7MB / 約16分)

ウェブサイトのイメージ

<http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/ja/research/meeting/index.html>

決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第5回 あなたの色に染まります

どこの世界でも「これがなければ会話が成り立たない」といった共通言語のようなものがありますが、会計の世界では、決算書に使う「勘定科目」がそれにあたります。「土地」「建物」「人件費」「消耗品費」などなど…どんな業種であれ、ほぼ同じ事柄やものを指すため、他の会社や法人の決算書と簡単に比較することができる大変便利な言葉です。ただ一つ、例外なのが「貯蔵品」です。

一般に「貯蔵品」は、道具や物品を販売用ではなく社内で使うため、未使用のまま一時的に蓄えておく時に使います。切手や事務用品、建設目的で購入した資材まで、企業によってその対象は十人十色、千差万別。単純には比較できません。それは、国立大学法人、独立行政法人も同様で、その様は実にバラエティに富んでいます。

例えば国立美術館は、配布用の展示会のカタログ（約1千万円）が該当しますが、国立印刷局では、お札の印刷に使う版面（約20億円）が該当します。均一で高品質なお札作りに欠かせない版面は手間とコストがかかるうえ、消耗も激しく、多量のストックが必要なのだそうです。

またJICA（国際協力機構）の「貯蔵品」は、被災国への緊急援助のための備蓄用物資（約5億円）。ドイツ、アメリカ、南アフリカ、シンガポール、成田空港と5か所に備蓄倉庫があり、テント、毛布、浄水器などニーズの高い8品目を災害現場に近いところから迅速に届けられる仕組みになっています。

一方、約474億円と各法人間でもずば抜けて規模の大きいJAXA（宇宙航空研究開発機構）の「貯蔵品」はもちろん人工衛星（使用予定期間が1年未満）とその打上げ用ロケット。最近では世界で初めて宇宙空間を太陽光だけで進むことに成功した宇宙ヨット「イカロス」、ISS（国際宇宙ステーション）に物資を運ぶ無人補給機「こうのとり2号機」が、それぞれ打ち上げまで「貯蔵品」として待機中だったそうです。



さあ、お待ちせいたしました！



小柴ホールにある
展示用増倍管（上）
とスーパーカミオ
カンデ内の増倍管

われらが東京大学の「貯蔵品」は、岐阜県飛騨市神岡鉱山の中にある光電子増倍管です。目に見えない弱い光を検出する高感度センサーですが、宇宙線からニュートリノを取り出すためには、更に性能の良い直径50センチの特注品が大量に必要です。複雑な製造工程、多額のコスト（@約30万円）がかかるため、いざという時に備え、日頃からストックは欠かせないのです。

いかがでした？人命救助のための物資から宇宙の神秘を探る道具まで、「貯蔵品」はそのオシゴトに左右されやすい実にフレキシブルな器なんですね。（青）

このコラムへのご意見、ご質問をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております！

本部財務部決算課（内線22129）
E-mail: kessanka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ASIAN DIVERSITY

No. 5

現代チベット研究が映し出す チベットの多様性

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)では東洋文化研究所と共催で、毎週木曜日にセミナーを開催しております。今回は大川謙作氏(日本学術振興会、特別研究員PD)による、「現代チベット研究と代替民族誌の問題」(第8回東文研・ASNET共催セミナー、2010年7月8日開催)をご紹介します。

チベットが現代において、最もセンシティブな地域の一つであることは、ニュースや新聞を通じて皆様よく御存じのことと思います。チベット文化圏は複数の現代国家にまたがる広大な領域を形成しており、この多様性・複雑性が、チベットを研究対象とする学問領域にも大きな影響を及ぼしていることを窺わせるお話でした。

人類学研究とは、現地調査を通じて、その地域の多様性や普遍性を研究する学問研究です。中でも、チベットを研究対象とする人類学研究には、この地域の多様性に於いて、異なる複数の研究潮流が存在するそうです。セミナーでは「シェルパ中心主義的研究」と「ラサ中心主義的研究」という二つの潮流を取り上げられました。「シェルパ中心主義的研究」は、ネパール・ヒマラヤあるいはインド・ヒマラヤのチベット系住民の社会こそがチベット社会の典型であるとし、この地での現地調査をもとにチベット社会の特質を明らかにしようとする研究の一派です。他方「ラサ中心主義的研究」は、ラサと中央チベットをチベットの代表と見なしつつも、チベット本土での現地調査が困難であるため、再構成的民族誌(難民などへの聞き書きによる歴史の再構成)による研究を行う一派です。

チベットの複雑性は以上の通り、複数の研究潮流を生み出したのみならず、各潮流の相互対話を乏しいものとしてきました。チベットでの現地調査が困難であることを理由に、インドやネパール研究に関心を移した学者、またシェルパこそがチベットを代表するものであり、タライ・ラマやラサはむしろ、チベットの特殊な部分だとみなす学者など、同じチベットを研究対象としつつも、様々な研究スタイルやチベット文化圏のとらえ方も紹介されていました。大川さん御自身は、ラサの御研究を進めていらっしゃるそうです。

セミナーの詳細は下記のURLをご参照下さい。
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6924>
ASNETホームページ
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
(ASNET) 安田佳代

★ASIAN DIVERSITY★

★ASIAN DIVERSITY★

Crossroad:

交差道路や、道が交差するところにある集会場を意味します。産業界と研究者のクロスする場所の意味をこめます

第20回科学技術
交流フォーラム

次世代ITインフラに 新しい世界のうねりを実感

産学出合いの場として好評をいただいている「科学技術交流フォーラム」を1月13日、武田先端知ホールで開催しました。第20回目の今回のテーマは「サイバーフィジカル情報革命—ホリスティックセンサーからの情報爆発を価値創造に結び付ける次世代ITインフラ」。多種多様なセンサーによって得られた大量の実世界データをサイバー空間で処理解析し、それに基づいて実世界の効率化・高度化を実現しようとする新しい情報通信技術「サイバーフィジカルシステム(CPS)」について内外の専門家と議論を行おうとする試みです。講師に経済産業省商務情報政策局情報処理振興課長の東條吉朗氏、「情報爆発」などの先進的な大規模プロジェクト推進の第一人者である生産技術研究所の喜連川優教授(※)、米国IBMで「スマータープラネット」プロジェクトを推進されている Harry R. Kolar 博士、工学系研究科の谷口治人特任教授、森ビル(株)専務取締役の森浩生氏、アマゾンジャパン・ロジスティクス(株)代表取締役社長の瀧井聡氏、農学生命科学研究科の二宮正士教授、国立情報学研究所長の坂内正夫氏(※)を迎え、CPSの基礎から、CPSに



ITを活用した「スマート化」の重要性を語る Kolar 博士



次世代ITインフラの“青写真”に聴き入る

よって生み出される社会的価値、そしてスマートグリッド、スマートシティ、IT農業革命を含む CPS の実際の適用例など、多角的な視点からのご講演をいただきました。次世代の情報通信技術の核となる最先端技術とその応用の広さに、定員の200名をはるかに超える248名の聴講者が熱心に耳を傾け、情報社会の未来探索に先手を打って取り組まれている講演者と活発な意見交換が行われました。

講演会終了後の交流会でも、専門分野や産業界の壁を超えたCPSの適用に関する議論がそここで繰り広げられ、今後の大きな展開への手応えが大いに感じられました。(※下記に講演の一部内容を掲載)

基調講演「情報爆発が牽引する次世代社会 ITプラットフォーム“情報融合炉”の展望」

喜連川 優教授

IT技術の進展は大量の社会的情報の解析や取り扱いが可能となるレベルに達しました。これを活用するためには、個人データの活用に関する法的整備に加えて、それらのデータ処理が社会に新しい価値・サービスを生むことを示し、喜んで個人データを提供する形を作る



ことが必要です。その実現を目指すのが「情報大航海」につづく「サイバーフィジカル情報革命」の取り組みです。技術的には、組み込みシステムとサイバー空間を有機的に結合するプラットフォームの革新が最も重要です。

講演「CPSの衝撃と次世代IT研究開発」

坂内 正夫氏

サイバー世界と実世界の融合を主眼とするサイバーフィジカルの時代が到来しまし

た。交通、エネルギーは言うに及ばず、医療や農業に至る社会生活全般が変革期を迎え、社会のルール・構成そのものも構造的な変化を余儀なくされます。この時代の研究開発はデータが主役の Data Centric Science が中心となり、社会制度まで踏み込んだ共生型グローバルイノベーションが生み出されます。学術情報ネットワーク(SINET)など、その萌芽プロジェクトが活動を開始しています。



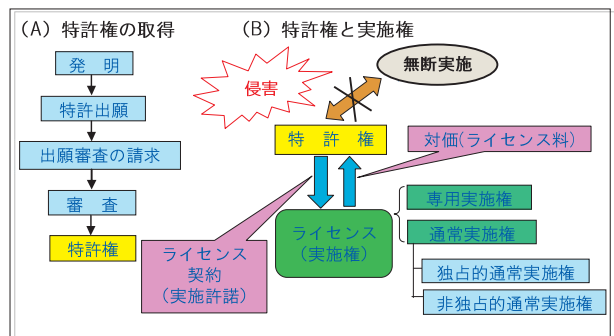
コラム 知的財産用語の基礎知識

第2回 特許権とライセンス

特許権を取得する手続きは、図(A)のとおりで、特許出願の後、出願審査の請求、特許庁審査官による審査を経て、所定の要件(新規性、進歩性等)を満たす場合には、特許権が付与されます。特許権は、他人の無断実施を排除できる強い権利です。このため、他人が無断で特許発明を実施すると特許権を侵害することとなり、特許権者から差止請求、損害賠償の請求等について提訴される場合があります。また、悪質な場合には、侵害の罪として刑事罰を受けることになります。このことから、特許権を取得することは、極めて優位な立場になりますので、技術開発によって得られた発明を早期に特許出願し、特許権を獲得する必要があります。なお、特許権の存続期間は、特許出願の日から原則20年間であり、権利維持のために特許料を支払う必要があります。

以上のことから、特許権を保有しない者は、特許発明を実施することができませんので、実施する場合には、特許権者からライセンスを得る必要があります。ライセンスとは、一般に、特許権者が、ライセンスを受ける側(ライセンシー)に対して、対価(ライセンス料)の支払いを条件として実施権を許諾することをいい、諸条件を記載したライセンス契約を締結します。

「知的財産」という言葉はよく聞けれど、人に説明できない、という方も多いのではないのでしょうか？ここでは、知的財産用語の基礎的な用語について解説します。(執筆:知的財産部)



許諾対象となる実施権の形態は、図(B)に示すとおりです。専用実施権は、ライセンシーに特許発明の実施を独占させるもので、原則として特許権者も実施できない性質の権利です。通常実施権は、ライセンシーに単に実施を許可するという性質の権利です。なお、独占的通常実施権は、他のライセンシーには許諾しないというもので、非独占的通常実施権は複数のライセンシーに許諾することができるものです。

連絡先: 産学連携本部 (本部産学連携課)
電話: 内線22857 (外線03-5841-2857)
WEBサイト: <http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR

検索

DUCR
Division of University Corporate Relations
The University of Tokyo

※この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共に紹介していきます。

政策提言

技術と社会をつなぐ ネットワーク構築を

新しい科学技術が社会に適用される際には、その進展段階に応じた様々な政策的対応が必要になります。しかし、新しい政策の実現には一定の時間がかかり、科学技術の進展スピードに追いついていないのが現状です。

先端的科学技術が社会に及ぼす影響を早い段階で予見し、社会的対応策を提示するテクノロジーアセスメント（先端技術の社会影響評価：TA）は、こうした背景の下、政策決定の補完的な役割を務めるシステムとして期待されています。今回の政策提言では、TAを制度化することによってその役割を強化し、長期的・戦略的視点から先進技術の社会導入に貢献しうる体制を整えるための、選択肢を提案しています。



コメントする城山英明教授。
 （政策ビジョン研究センター長）

TAは我が国においても断片的に行われてはいますが、問題の俯瞰的な把握、不確実性や価値の多様性の考慮といった点で、政策決定者のニーズや社会からの信頼に十分に応えているとは言い難い状況です。

「事業仕分け」は、科学技術開発に社会の

目が届くとともに、一定の意思決定の透明化が行われたという意味で評価できますが、科学技術について考慮すべき目的や価値の多様性の確保という点では、課題が残りました。

技術の社会導入にあたっては、幅広い関係者や国民一般を巻き込んで対話を重ね、それぞれにとっての便益や安全、リスクに対する考え方の違いを踏まえて、個別技術と社会のあり方をつなぐ、TA本来の仕組みが機能することが必要です。TAの制度化にあたっては、いろいろなオプションが考えられます。大学や企業、NPOなど、TAを担う複数の主体間をネットワーク化することにより、ダイナミックで安定的な実施体制を実現することも、選択肢の1つです。

こうしたTA的な機能を既存の枠組みに埋め込んで実践する、ネットワーク型のTAの場合は、分散的に多様な個人や組織が関与することから、責任の所在を明確にしておくことが肝要です。ネットワークのコアとなる主体が、責任を持ってマネジメントし、対象課題や社会的・政治的状況に合わせて、他の主体との連携のあり方を柔軟に変えていくことが求められます。これらは多様な観点からのTAが必要とされる新しい世代のTAのあり方として、実現が望まれます。



科学技術ガバナンス研究会では15回にわたり、TA制度のあり方を巡る活発な議論が交わされた。

テクノロジーアセスメント（TA）とは

テクノロジーアセスメント（先進技術の社会影響評価）とは、従来の研究開発・イノベーションシステムや法制度に準拠することが困難な先進技術に対し、その技術発展の早い段階で将来のさまざまな社会的影響を予期し、社会的対応策を提示することで、技術や社会のあり方についての問題提起や意思決定を支援する制度や活動を指す。

テクノロジーアセスメント制度化と選択肢

技術ガバナンス研究ユニット（責任者：城山英明）

政策提言の骨子

1. 課題—科学技術の多様な社会的含意を可視化する必要
2. TA制度化の選択肢
 - (1) 政府レベルでのTA機関の制度化
 - (2) 政府によるTA活動のための資金枠の設定
 - (3) 個別研究開発機関等のイニシアティブによる制度化
 - (4) 国際的制度化
3. 組織・運営体制と人材の確保
 - (1) 組織体制の確立：スタッフ数・予算
 - (2) 運営体制の確立
 - (3) ステークホルダー・市民参画
 - (4) TAに求められる人材の確保

※本提言は、RISTEX支援による、東京大学公共政策大学院先進技術の社会影響評価手法の開発と社会への定着（I2TA）プロジェクトにおける研究をもとに、政策の方向性に関する提言としてとりまとめたものである。

科学技術投資決定の あるべき姿とは

森田朗教授（政策ビジョン研究センター学術顧問）

今わが国では、停滞する経済を活性化するために、世界の最先端に行く技術開発をし、それによって産業の活性化を図らなくてはならない。そのために、成長戦略への期待が高まっている。その効果は、具体的にどの分野の研究に重点的に投資するか、その投資が成功するかにかかっているといえよう。

先の読めないこうした研究への投資決定は、どの国でも難しい問題である。わが国でもそのための仕組みはあるものの、実際には、研究費の獲得を巡る各分野の研究者間で予算の争奪

戦が展開されているという批判の声も聞かれる。現実には、限られた予算を、今後成長の期待される分野に投資決定することは容易ではない。新たな技術を生み出す可能性をどう見極めるかということ、投資額が成果と結びつく可能性が高いことから、その規模を決定することは政治的にも難しい。

…民主的な決定手続にありがちな問題点は、将来の不透明な事項について、多様な利害関係者が自己に有利な主張をし、それを総合するような形でばらまきの投資を行ってしまいがちなことである。不明確な目標、曖昧な評価基準、無責任な決定者によって、非効率な投資が行われる可能性があるのである。

情報の収集分析の段階で多くが参加し、活

発な議論をすることは望ましい。問題は、投資する重点分野をしっかりと決めることであり、対象から外れた人たちに、結果をどうやって受け入れさせるかである。まさにその点に政治的リーダーシップの重要性があるが、そのためにもきちんとしたデータ、特に世界的なトレンドを踏まえた情勢分析に基づく議論をすることが大切である。

こうした体制は、萌芽的で将来的な可能性を探り先行投資をする分野を決めるためには、特に重要である。日本の科学技術政策においても、科学技術投資決定のあるべき姿についての原点に立ち戻って制度設計ないし制度運用を行うことが必要であろう。

全文は当センターHPコラムをご覧ください。



日本らしい科学技術のスタイルとは

大島 まり

情報学環 教授

教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

カタールでのAFCアジアカップ2011において、サッカー日本代表チームSamurai Blueが見事に優勝！！守備はいいが、攻撃が弱く、点が取れないと言われ続けてきた日本チームが、積極的に攻撃し、点を取り返すまでになった。ドーハの悲劇、1994年アメリカワールドカップ出場をかけたアジア地区最終予選での敗退を知っている世代としては、やっと日本もここまでできたのかと、日本サッカーの目覚ましい発展を感じた。

優勝後の選手たちのインタビューで、ピッチの選手だけでなく、控えの選手、そしてスタッフが一丸となって得られた結果というコメントが多く、とても印象的であった。チーム全員が肩を組んで国歌斉唱、先輩と後輩の関係を保ちながら練習中も試合中も皆が協力してサポートしていく体制など、他のナショナル・チームでは見られない“和”を重んじた、良い意味での日本らしさがチームに見られる。最近では、海外で経験を積む選手も多くなってきているが、そのような選手たちが活性剤となっているのだろうが、ナショナル・チームとなるとやはりお国柄が出るようである。

グローバル化が進む中で、国としてのアイデンティティをどのように出していくのかは、スポーツや産業にかかわらず、科学技術分野においても重要な課題である。科学技術の発展を担う研究者は個人プレイヤーのイメージが強いが、この時世、All Japanの体制で一丸となって進めていく傾向に変わりつつある。グローバルな視点を持った個人プレイヤーとして活躍するとともに、多様な人材をまとめて組織、最終的には国の発展に、どのようにつなげていくのか。その際に、やはり国の持つ文化や国民性、いわゆるお国柄は無視できない重要な要素に思う。

欧州の各サッカーチームはグローバル化が進み、自国のクラブチームは外国人選手が多くなり、自国の選手が育っていない、といった問題も生じはじめている。人材の流動性を含めてサッカーと科学技術の世界は異なるため、もちろんサッカーの組織作りをそのまま横滑りして科学技術にあてはめることはできない。しかし、日本の良さを生かし、欠点を改善することをチーム一丸として取り組み、成長していくスタイルは多いに参考になるのではないだろうか。

では、いったい科学技術における、日本らしさとは、どのようなものだろうか。日本サッカーがドーハの悲劇後、浮き沈みを経験して今があり、世界のさらなる高みをめざしてさらに模索が続くように、科学技術も模索を続けることで、日本独自のスタイルを確立し、進化していくことになるのであろう。サッカーと同じように、日本の科学技術も今後盛り上がって欲しいものである。

★科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>



第16回 成果はいかほど？

リユース PC を借りた学生さんは 1 年間の貸与期間の終わりに「成果報告書」を提出する事になっています。成果報告書とはその名の通り、リユース PC をどう研究・教育に役立てたか、どんな成果をあげたかについて報告してもらうものです。

提出された成果報告書を読むと、皆さん様々な事にリユース PC を役立ててくれているようです。多く見られたのは、卒業・修士論文等の執筆、研究用の解析ソフトでデータを取った、というもの。他には学会やシンポジウムでの発表の際利用した、短期留学に携帯した、など学内外を問わず広く利用しているようでした。また、講義によってはPCを利用しないとノート取りが間に合わない、資料はウェブからダウンロードしなければならないなど、PC が無ければ不便どころか講義を受け続ける事が難しいと感じているという声もありました。我々事務職員の仕事も PC が無ければ成り立ちませんが、学生さんが授業を受ける上でも現在は PC の必要性がかなり高いということを実感させられました。

この報告書は本事業の今後の運営の参考にさせてもらうと共に、この利用実態を科所長会議で報告する予定です。拠出して頂いた PC がどのように活用されているかをフィードバックするためです。ご協力頂いた方々も実際に利用した



学生さんからの声を聞くことで、改めてリユースに協力して良かったと思って頂けるのではないのでしょうか。これによって「どこかで学生さんの役に立っているなら、またリユースしよう！」と思って下さる方が一人でも増えれば、我々としても万々歳です。(高)

成果報告書は今後も続々と提出されてきます

★1月各部局ご提供PC★

医学部 4台 (うち個人より寄附3台)
教養学部 1台

以上5台のノートPCは6回目の募集時に利用させていただきます。どうもありがとうございました。引き続きご協力お願いいたします。

- 問い合わせ先：ノートPCリユースオフィス
(本部資産管理部資産課内)
E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp
URL : <http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/>
内線: 22135 (担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先：美津野商事株式会社システム事業部
E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)
電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180

ワタシのオシゴト 第60回

Rings around the UT

農学生命科学研究科附属牧場 技術職員

富松 理さん

ヒトよりたくさんのウシがいるところです



牛を移動させているところ。牛がすごく嫌がっているのがわかりますか？

農学生命科学研究科附属牧場は茨城県笠間市にあります。本郷地区からは車で2時間程と意外に近場？で、暖かい時期は学生実習で賑わいます。牧場にはおよそ30頭の牛、15頭の馬、90頭の山羊がいますが、私は牛の飼養管理を担当しています。餌やり、掃除など全天候対応屋外型の仕事が基本ですが、大学の附属施設として研究の支援や学生の指導等にもあたります。また、研究用の黒毛和牛数頭を除いてすべて乳用牛のホルスタインなので、牛乳の生産も行っています。

牛は通常臆病でおとなしい動物ですが、驚いたり興奮したりすると俊敏で気の荒い一面を見せます。雌でも体重は600kgを超えるため扱いに危険を伴うこともあります。慌て者なうっかりさんでもあるので滑って転んでぶつかってとこちらを飽きさせません。

牧場に足を運ぶ機会がありましたら、是非牛をじっくり観察してみてください。何かおもしろいモノを見せてくれる…かもしれません。



去年秋に開催された牧場公開デーで撮影した教職員と学生の集合写真です

得意ワザ：パソコンを部品から組み立てること。
部品調達のためよく秋葉原に出発します

自分の性格：出不精で面倒くさガリのインドア派
次回執筆者のご指名：岩藤健弘さん
次回執筆者との関係：東大に就職したときの同期生です
次回執筆者の紹介：幹事の達人。東京で飲むときはお世話になってます

行動シナリオの「今」をレポート

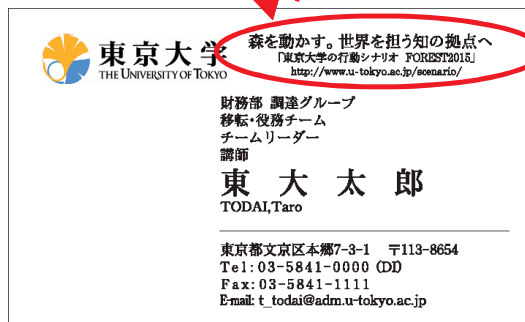
FOREST NOW

FORESTのロゴが名刺に！

昨年9月に始まった総長による部局説明会も、20部局以上への訪問を終え、いよいよ大詰めを迎えています。総長の所信で、「行動シナリオ FOREST2015」の精神ともいえる「森を動かす。世界を担う知の拠点へ」のフレーズも全学的に定着しつつあるのではないのでしょうか。

さて、このフレーズですが、3月からさらに身近なところで使えるようになりました。本部契約課を通して発注する名刺に、オプションで「森を動かす」のロゴを印刷することができるようになりました。下の絵をご覧ください。

ここにFORESTロゴが入ります



拡大すると…
(行動シナリオHPのアドレスも印刷されます)

森を動かす。世界を担う知の拠点へ
「東京大学の行動シナリオ FOREST2015」
<http://www.u-tokyo.ac.jp/scenario/>

2015年まであと4年弱となりました。「行動シナリオ」推進のため、ますます「スピードとコミュニケーション(※1)」をもって取組みを進めたいですね。次回名刺を発注(※2)する際は是非「FORESTロゴ」付きの名刺を発注してはいかがでしょうか？

- ※1 「スピードとコミュニケーション」は総長が1月に幹部職員向けに年頭挨拶をした際に使用した言葉です。「日頃からの手間ひまを惜しまないコミュニケーションがあつてこそ、いざとなった時に、スピードのある判断や行動が可能になる」というメッセージが込められています。
- ※2 2月21日発注締切分から適用されます。ロゴ付きの名刺は、ロゴ無しの名刺と同じ料金で発注できます。

行動シナリオを読もう！
<http://www.u-tokyo.ac.jp/scenario/>

【お問い合わせ先】本部企画課(内線22393)

コミュニケーションセンターだより No.73

■御酒オリジナルボトルのお薦め★

コミュニケーションセンターの人気商品「御酒」には、オリジナルメッセージや名前を入れることができる事をご存知でしたか？

東大泡盛、幻のお酒、とも呼ばれる「御酒」には、数種類から字体、お色を選んでいただき、好きなメッセージを入れる事ができます！！

お世話になった方への感謝の言葉や、お誕生日・結婚・出産などのお祝いのメッセージ、入学・卒業の記念にお薦めです！

ご注文から仕上がりまで**1ヵ月程かかります**ので、お早めのご注文をお願いします★



「御酒陶器ボトル」(720ml) ¥4,200(税込み)
「御酒ミニボトル」(300ml) ¥1,995(税込み)

* 御酒名入れ代詳細(版代含む) *
陶器ボトル ¥2,000 ミニボトル ¥1,500

■スタッフオススメ商品紹介★



理科 I 類2年
渥美翔太郎

こんにちは！
学生スタッフの渥美です。
今回僕がご紹介するのは「御酒」です。
この御酒は、戦争で途絶えてしまったと思われていた黒麹菌が、約50年後に大学の分子細胞生物学研究所の研究室に研究用として保存されていた事が判明し、54年の歳月を経て復活した歴史ある沖縄泡盛です。

帰省時にお土産として持っていくと、家族や親戚に大好評で、「たまに送ってくれ」と電話をもらうようになりました(笑)
ボトルにオリジナルのメッセージや、名前を入れることもできますので、贈り物にぜひお薦めです！！

担当：UTCC三浦



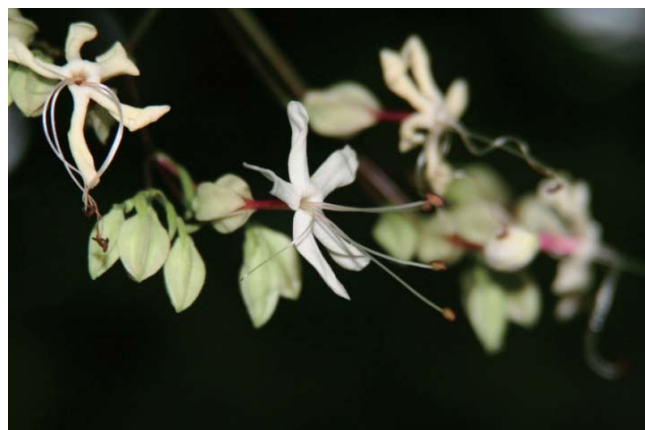
The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00
電話：03-5841-1039
<http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp>

読者投稿写真

この実、何の実？



コメント：
名誉教授のかたに名を教えてくださいました。
クサギといい、染料にもなるそうです。
花より実のほうが目立ちますね。
駒場Iキャンパスの正門から、アドミニストレーション棟へ向かう小径。
7月末のつぼみ、開花は8月頭、10月頃に実を撮影。

(撮影： 大学院総合文化研究科・教養学部等事務部総務課
広報・情報企画係 鈴木基美さん)



「学内広報」ニュース・インフォメーション記事提出要領

作成例

本部広報課

「キャンパスツアー」スタート！

本学学生がツアーガイドとなって、赤門や大講堂(安田講堂)、三四郎池、総合図書館など、本郷キャンパス内の名所旧跡を案内する「キャンパスツアー」が今年も始まった。キャンパスツアーは昨年度から実施されており、「ジュニアTA制度」に基づき応募した学生が、東京大学の歴史や学生生活のエピソードを交えながら、約2時間にわたり案内する。

今年度のスタートとなった5月14日(土)には、午前、午後合わせて43人が参加し、ツアーガイドの説明に熱心に耳を傾けていた。



広報センター前で説明するガイドとそれを聞く参加者

ツアーには、高校生以上であれば誰でも無料で参加することができる。今後のツアーは、五月祭期間や年末年始、入試期間を除く授業期間の土曜日と日曜日(10:00~12:00、14:00~16:00)に行われる予定である。



正門から大講堂に続く銀杏並木

記事の冒頭に**部局名**を記載

簡潔で分かりやすい**タイトル**を記載

- ・過去の報告記事(ニュース)では「**である調**」を用いる
- ・今後のお知らせ(インフォメーション)では「**ですます調**」を用いる

日付には括弧書きで**曜日**をつける

- ・写真を掲載する場合は、25文字以内で**キャプション**(写真の説明文)をつける。写真は3枚程度まで。
- ・原稿とは別に、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを別途送付する(プリントの写真は学内便で送付)
- ・画像ファイルのサイズは1枚あたり1M程度

句読点は「**、**」「**、**」を用いる

時間は**24時間表記**とする

- ・記事は一行25文字の書式で作成する。
- ・文字数は800字を目安とするが、内容によって増減は可とする。
- ・人物名は**フルネーム**で表記すること。

提出上の注意

1. 提出方法

記事は、各部署の広報担当者を通して、メールの添付ファイルとして送付すること。
(学内広報担当者の個人アドレスではなく、必ず下記のアドレスに送付してください。)

2. 締切日

HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html
トップページ> 広報・情報公開> 学内広報

問い合わせ先・提出先

本部広報課広報企画チーム
内線 22031

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

※原稿を受け取った後、学内広報担当者から、必ず**受領メール**をお送りしています(概ね1週間以内)。返信メールが届かない場合は、何らかのトラブルで原稿を受け取れていない可能性がありますので、その際は**お問合せ願います**。

INFORMATION

お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

学内広報では、今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義のお知らせを掲載します。

大学院医学系研究科・医学部

数間 恵子 教授

(健康科学・看護学専攻・臨床看護学講座
成人看護学/緩和ケア看護学分野)

日時：3月18日(金) 15:00～16:30

会場：医学部2号館大講堂

演題：臨床看護－測定と評価、教育－30余年の歩み

大学院工学系研究科・工学部

内藤 廣 教授

(社会基盤学専攻)

日時：3月11日(金) 15:30～17:30

会場：工学部1号館15号講義室

演題：建築・都市・土木を横断する

大学院情報理工学系研究科

辻井 潤一 教授

(コンピュータ科学専攻)

日時：3月18日(金) 15:00～16:30

会場：工学部2号館213号室

演題：計算機と言葉：言語処理研究の40年をふりかえって

社会科学研究所

仁田 道夫 教授

(附属社会調査・データアーカイブ研究センター)

日時：3月8日(火) 15:00～17:00

会場：経済学研究科学術交流棟・小島ホール

演題：非正規雇用をめぐる

お知らせ

大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第536(2月2日)号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、15号館ロビー、図書館ロビー、生協書籍部、駒場保健センターで無料配布しています。バックナンバーもあります。

第536号の内容は以下のとおりとなっていますので、ぜひご覧ください。

吉田丈人：教養としての「生物多様性」

松原隆一郎：世界柔道選手権を制した秘技「柴山縦」

東大柔道部員が開発

村田純一：二〇年を振り返って

渡會公治：ときどきロコモ 駒場を去る

岡本拓司：「真空から生まれる科学と技術——アリストテレスからカミオカンデまで——」展の準備について

〈本の棚〉

山本泰：渡會公治著『介護に頼らない身体をつくる いますぐできるロコモ体操 ロコモティブシンドローム』
「気づく」というアート

〈時に沿って〉

阪本拓人：オススメすることしないこと

奥田拓也：機会はどこにあるか？

豊田太郎：2010年を振り返って

班目春彦：運動の記憶

学部報委員会：コーナーストーン

お知らせ

情報基盤センター

「人文社会系のための RefWorks 入門」ほか 「情報探索ガイダンス」各種コース実施のお知らせ

講習会に参加して、論文の探し方や便利な文献管理ツール RefWorks の使い方をマスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、「情報探索ガイダンス」各種コースを実施しています。

実際にパソコンを操作しながら実習するので、わかりやすいと大変好評です。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※自宅からの利用方法はどのコースでも説明します。

■ 3/2 (水) 12:10 ~ 12:30

自宅から検索するには？ (20分ワンポイント講習)

自宅からデータベースや電子ジャーナルを使う方法だけ、知りたい。そんな方にお奨めなのが、このコース。ECCS アカウント認証による SSL-VPN Gateway サービスを紹介します。

■ 3/3 (木) 13:30 ~ 14:30

人文社会系のための RefWorks 入門【新コース】

人文社会系でこれから RefWorks を使ってみようという方向けに、Web 版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。CiNii (日本語論文)、EBSCOhost (英語論文) などご希望に応じてデータベースからのデータの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法を実習します。(過去の「RefWorks を使うには？」コース参加者は受講不要)

■ 3/4 (金) 15:00 ~ 16:00

学位論文を探すには？【新コース】

国内外の学位論文を検索できる各種データベースを紹介します。東大で新たに導入されたばかりの「ProQuest Dissertations & Theses Full Text」(北米を中心に世界 1,700 以上の大学・全分野の学位論文データベース) の検索実習もやってみましょう。

■ 3/8 (火) 16:00 ~ 17:00

はじめての医学系論文の探し方 (医中誌 Web と PubMed)

初心者向け。医学部以外の方も歓迎です。医学・薬学・獣医学・看護学・社会医学までカバーする国内の医学文献データベース「医中誌 Web」と、世界最大の医学系データベース MEDLINE の無料版「PubMed」の基本的な検索方法を実習。(「医学系文献検索入門」参加者は受講不要)

■ 3/10 (木) 12:10 ~ 12:40

海外の新聞記事を探すには？ (30分クイック講習)

海外の新聞記事を検索できる各種データベースをまとめてコンパクトに紹介します。

■ 3/11 (金) 16:00 ~ 17:00

自然科学系のための RefWorks 入門【新コース】

自然科学系でこれから RefWorks を使ってみようという方向けに、Web 版の文献管理ツール「RefWorks」の使い方を説明します。Web of Science、ScienceDirect、PubMed、医中誌 Web などご希望に応じてデータベースからのデータの取り込み方、参考文献リストの自動作成方法を実習します。(過去の「RefWorks を使うには？」コース参加者は受講不要)

月	火	水	木	金
	3/1	3/2 12:10-12:30 自宅から 検索 するには	3/3 13:30-14:30 人文社会系 のための RefWorks	3/4 15:00-16:00 学位論文を 探すには
3/7	3/8 16:00-17:00 はじめての 医学系論文 の探し方 (医中誌 Web と PubMed)	3/9	3/10 12:10-12:40 海外の 新聞記事を 探すには	3/11 16:00-17:00 自然科学系 のための RefWorks

●会場：本郷キャンパス総合図書館 1階講習会コーナー
(ECCS の無線 LAN 対応ノート PC 持込 OK)

●参加費：無料

●予約不要 各回先着 14 名。直接ご来場ください。



★授業・ゼミでも講習します！

論文の探し方の出張講習を、随時受付中です(無料)。授業やゼミの内容に合わせて講習いたします。

論文指導や進学予定者へのガイダンスにもご活用ください。少人数でも、どのキャンパスでも OK です。

会場のことなど各種ご相談に応じます。お気軽にご連絡ください。

過去の実施例は以下の URL でご覧いただけます。

(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

★ Litetopi メールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。(無料)



literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

● お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649 (内線：22649)
 literacy * lib.u-tokyo.ac.jp
 (*は@に置き換えて送信してください。)
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>
 (ツイッター http://twitter.com/gacos_today)

お知らせ

分子細胞生物学研究所

分子細胞生物学研究所・医科学研究所 合同
 技術発表会のお知らせ

分子細胞生物学研究所と医科学研究所では、以下の予定で今年度の技術発表会を開催することになりました。

日時 3月4日(金) 13:00～15:30
 会場 弥生講堂アネックス エンゼル研究棟講義室
 参加費 無料
 問い合わせ先 tsueda@iam.u-tokyo.ac.jp

プログラム

[技術発表]

「ヒアルロン酸受容体 Stablin-2 の欠損はガンの転移を抑制する」

分生研 発生・再生 西條(及川) 栄子

「心臓発生と心疾患理解のためのイメージング解析」

分生研 心循環器再生 横田 直子

[研修報告]

「実験動物関係高度技術研修報告」

分生研 核内情報 井上 絵里奈

[技術発表]

「培養細胞及びマウス卵ライプイメージングによるアクチン結合蛋白質トロポミオシン4の機能解析」

医科研 癌細胞シグナル 西住 紀子

「次世代型質量分析計と SILAC 法を利用したシグナル伝達研究」

医科研 疾患プロテオミクスラボラトリー 秦 裕子

お知らせ

本部学生支援課

第57回東京地区国公立大学連合文化会美術展(国公立展)のご案内

都内国公立大学11校の美術系サークルの展覧会「東京地区国公立大学連合文化会美術展都内国公立大学11校美術部合同展」(国公立展)が今年は本学が当番校となり、下記の日程にて開催されます。

この美術展は、実施までおよそ1年をかけ、学生が主体となって企画、準備を行うもので、テーマ(今年は“宇宙”)に基づく各大学の共同作品等、多種多様な作品が出展され、学生間の交流を促進するとともに、活動意欲を刺激する場となっています。

本学からは毎年、美術サークル(本学届出学生団体)が参加しています。入場は無料となっておりますので是非、この機会に学生達の成果をご覧ください。

日時：3月16日(水)～3月21日(月)
 3月16日(水)～20日(日)10:00～18:00<入場は17:30まで>
 3月21日(月)10:00～16:00<入場は15:30まで>
 場所：目黒区美術館区民ギャラリー
 (JR山手線目黒駅より徒歩10分・東急バス田道小学校入り口より徒歩3分)
 入場料：無料



参加大学：

お茶の水女子大学，
 首都大学東京，
 電気通信大学，
 東京大学，
 東京医科歯科大学，
 東京外国語大学，
 東京海洋大学，
 東京学芸大学，
 東京工業大学，
 東京農工大学，
 一橋大学 (with 津田塾大学) (50音順)

HP: <http://jfn.josukai.net/circles/culture/h-t-bijutsubu/kokkouritsu2011/>

【本件に関する問合せ先】

本部学生支援課学生生活チーム 辻角・山形
 TEL：03-5841-2524・2514 (内線 22524・22514)

お知らせ

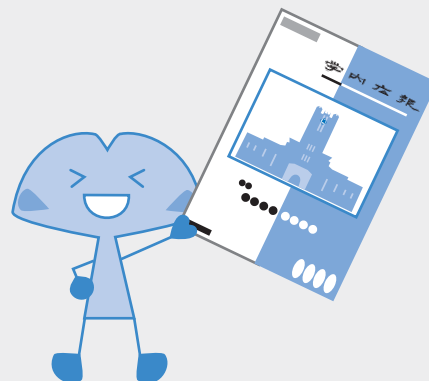
医科学研究所

「第8回市民公開医療懇談会」のご案内

医科学研究所附属病院では、毎月最終水曜日の夕方、一般市民の方々を対象に市民公開医療懇談会を開催しております。専門医から直接医療に関する話を聞くことができるまたとない機会です。奮ってご参加ください。

3月の第8回目は以下のとおりです。

- 心肺蘇生法を学びましょう
 ~突然死から身を守るために~
 先端診療部 中岡 隆志 講師
- 高血圧と診断されたら
 先端診療部 高橋 直之 助教
- ・日時 3月30日(水) 17:30~18:30
- ・場所 医科学研究所附属病院 8階ホール
 〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
- ・入場料 無料
- ・定員 100名
- ・問合せ 医科学研究所庶務係
 TEL 03-5449-5572 FAX 03-5449-5402
 E-mail u-shomu@ims.u-tokyo.ac.jp



宮廻美明名誉教授

宮廻美明先生は、昨年12月17日に逝去されました。享年63歳でした。

先生は、昭和44年3月に早稲田大学をご卒業後、長年、住友商事株式会社に勤務された後、平成15年に大学院法学政治学研究科の教授に就任されました。昨年3月に定年退職されましたが、その後も大学院法学政治学研究科の客員教授としてお勤めいただきました。

先生は、豊富な実務経験に基づき、企業法務の分野で優れた研究をされ、幅広い分野について裁判例を分析して実務への影響点を指摘するというバランスのとれた学風で学界に多大な貢献をされました。また、先生は、大学院法学政治学研究科において、「比較法政国際センター」（改組後は「ビジネスロー・比較法政研究センター」）の教授として、同センターや法科大学院の諸事業において指導的な役割を演じられまし



た。

先生は、ビジネスロー・比較法政研究センターの責任者として、センターの諸業務を丁寧に担当され、この間、先生の企画されたシンポジウムを始めとする諸行事は、先生のおかげで、順調かつ盛況に行われてきました。

また、法科大学院では、アメリカのコロンビア大学およびミシガン大学の先生方による英語による授業の企画を担当されたほか、毎年夏にヨーロッパとアメリカから外国人の講師を招いて合宿形式で行われる英語による授業であるサマースクールの企画・運営において、先生は、文字通り陣頭指揮をとってこられました。全国の法科大学院のなかでも東京大学でしかできないこのサマースクールも、先生のおかげで法科大学院学生の参加者の数は年々増大する盛況ぶりとなって現在に至っています。

このほかにも、教育面では、毎年実践的な講義と演習を担当され、先生は、受講した多くの学生から慕われる存在でありました。

ここに先生のご功績と温かいお人柄を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院法学政治学研究科・法学部)

伊藤正己名誉教授

本学名誉教授伊藤正己先生は、昨年12月27日に逝去されました。享年91歳でした。



先生は、戦時下の昭和18年、若き法律学研究者を残さなければならないという目的で選ばれた特別研究生の一人となり、英米法を専攻し、戦後においてアメリカ法の影響がさまざまな法制度に及ぶにあたり、まさに戦後の法律学を主導する役割を果たされました。日米法学交流計画でアメリカ留学の機会を与えられ、その帰国後に公刊された『言論・出版の自由』（岩波書店・1959年）によって40歳で日本学士院賞を受賞したことをはじめとして、『プライバシーの権利』、『憲法の研究』、『イギリス法研究』、など、英米法と日本法の双方にまたがる重要問題について、時代の先端を行く研究と、基礎法学的な研究との両方において優れた業績を発表し続けました。またそのわかりやすく達意の文章力で書かれた初学者向けの『現代法学入門』

や『アメリカ法入門』はいまだに多くの学生の必携書となっています。

学内行政においても、法学部長や総長特別補佐などを歴任したほか、本学退職後には最高裁判所裁判官となり、ほぼ10年の最高裁時代に数多くの少数意見・補足意見を書かれました。その後も、日本育英会会長や著作権審議会会長、国際科学技術財団参与など、幅広い社会的活動で貢献されました。平成11年(1999年)には文化勲章も受章されています。

文化勲章受章時には、一方で、先生の直弟子である英米法研究者10数名が小さなお祝いの会を設定することがあり、他方では、先生が本学在職中に顧問をされていた柔道部の有志が発起人となって200人以上が集まるお祝いの会が開かれたりしました。法学部山の会の顧問もされるなど、研究者になろうとする人だけではない、さまざまな学生たちとも交流を深めました。伊藤先生の最後の演習に参加した人たちが、卒業後も「まさみ会」と称して先生を囲む会を続けたというのも、伊藤先生のお人柄によるものだと思います。

その多大なるご功績と暖かなお人柄を偲びつつ、謹んで哀悼の意を表します。

(大学院法学政治学研究科・法学部)

事務連絡

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退職）			
23.1.31	樋口 理	大学院工学系研究科准教授	医科学研究所准教授
（採用）			
23.1.16	東 大作	大学院総合文化研究科准教授	
23.1.16	福井 尚志	大学院総合文化研究科准教授	国立病院機構相模原病院臨床研究センター病態総合研究部長
（昇任）			
23.1.16	鈴木 雅京	大学院新領域創成科学研究科准教授	大学院新領域創成科学研究科講師
23.1.16	越川 直彦	医科学研究所准教授	医科学研究所講師
23.1.16	長崎 正朗	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター准教授	医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター助教
23.2.1	橋本 鈺市	大学院教育学研究科教授	大学院教育学研究科准教授
（配置換）			
23.2.1	伊藤 耕一	大学院新領域創成科学研究科准教授	医科学研究所准教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

東京大学基金へのご寄附のお願い



東京大学副理事・渉外本部長 杉山 健一

日頃より東京大学基金及び渉外本部の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

東京大学基金では設立の2004年10月以降これまでに教職員の皆様から累計で13,890件、約1億6千万円(2010年3月31日現在)の温かいご支援を頂戴しております。心より感謝申し上げます。

しかしながら、基金に対する教職員の皆さまの寄附参加率および寄附申込金額は年々減少傾向にあります。文部科学省予算の漸減が続く中で、自力資金調達の高く、学内でも基金活動に対する気運をさらに盛り上げたいと考えております。

つきましては年度末を迎えるにあたり、一人でも多くの教職員の方に今年度の基金寄附への参加者となっていただきたく、東京大学基金へのご支援とご協力を、あらためてよろしくお願い申し上げます。

東京大学基金では、書籍によるご寄附「Books for Next」、懇親会などのおつりを寄附する「おつりプラス募金」、奨学寄附金の東大基金への振り替えなど、さまざまなご寄附の方法を用意しております。詳細については東京大学基金のホームページをご覧ください。基金事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

東京大学基金ホームページ

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/>

東大基金

検索

【問い合わせ先】

東京大学基金事務局

電話:03-5841-1217 (内線21217)

FAX:03-5841-1219 (内線21219)

E-mail:kikin@adm.u-tokyo.ac.jp

書籍による寄附をはじめました！

本棚に収まりきらなくなった書籍、引越し時に大量の書籍を新居にもっていくべきかお困りになった経験はありませんか。



書籍による寄附「Books for Next」は、それらの書籍を廃棄せず社会へ還元させるとともに、東京大学の教育・研究に役立てられるプロジェクトです。

【プロジェクト概要】

1. 送料は無料(※5冊以上)です。
2. 運送業者が集荷に伺います。
3. 書籍を仕分・買取し、東京大学の教育・研究のために寄附します。
4. 一部の書籍は、海外の日本語学科がある大学等に寄贈します。

【申込方法】

- STEP1 申込書をダウンロード
- STEP2 電話申込で集荷(0120-826-292)
古本募金「Books for NEXT」の件とお伝えください。

古本募金 東大

検索

【お問い合わせ先】

古本募金Books for NEXT事務局 0120-826-292 (受付時間10-19時
日曜のみ10-17時)

東京大学基金事務局 03-5841-1217(受付時間9-17時 土日祝日休)

オンラインからも申込可能です。

<http://books.todai-kikin.jp/>



Contents

特集

- 02 ご存知ですか？ 安田講堂のエトセトラ

NEWS

一般ニュース

- 05 本部環境安全課
本部防災訓練、実施される

部局ニュース

- 05 大学院工学系研究科・工学部
第一回協定校訪問プログラムを実施
- 06 大気海洋研究所
秋の所内厚生行事、写真コンテストと卓球大会を開催
- 07 大学院総合文化研究科・教養学部
「第五回東京大学 E.S.S. 杯争奪英語弁論大会」の報告
- 08 情報基盤センター
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点
第2回シンポジウム 開催報告
- 09 地震研究所
職員研修会を開催
- 09 大学院工学系研究科・工学部
文化財防火デー消防演習行われる
- 10 地震研究所
2010 年度地震火山災害予防賞の授与
- 11 地震研究所
新燃岳噴火の合同説明会を開催
- 12 先端科学技術研究センター
教授会セミナーで「伝える」：2011 年から短期
滞在外国人研究者も対象に

コラム

- 13 決算の DOOR ～数字が語る東京大学 第5回
- 13 ASIAN DIVERSITY No.5
- 14 Crossroad 産学連携本部だより vol.63
- 15 Policy + alt vol.17
- 16 インタープリターズバイブル vol.43
- 16 PC リユースのわ 第16回
- 17 Relay Column「ワタシのオシゴト」第60回
- 17 FOREST NOW
- 18 コミュニケーションセンターだより No.73

INFORMATION

お知らせ

- 20 退職教員の最終講義
- 20 大学院総合文化研究科・教養学部
「教養学部報」第536(2月2日)号の発行
——教員による、学生のための学内新聞——
- 21 情報基盤センター
「人文社会系のための RefWorks 入門」ほか
“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ
- 22 分子細胞生物学研究所
分子細胞生物学研究所・医科学研究所 合同技
術発表会のお知らせ

- 22 本部学生支援課
第57回東京地区国公立大学連合文化会美術展
(国公立展)のご案内
- 23 医科学研究所
「第8回市民公開医療懇談会」のご案内

訃報

- 24 宮廻 美明 名誉教授
- 25 伊藤 正己 名誉教授

事務連絡

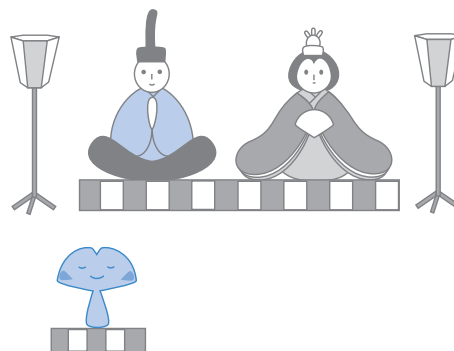
- 25 人事異動(教員)

巻末特集

- 26 東京大学基金へのご寄附のお願い

淡青評論

- 28 特任教員が研究代表者になれるように



編集後記

やっぱり、一番エキサイティングなのは「現場」です。「事件は会議室で起きてるんじゃない！ 現場で起きてんだ！」の名セリフを俟つまでもなく、これは自明のこと。そんな「エキサイティングな現場」の痕跡を随所に残しているスペースといえば、安田講堂なのです。

内田祥三の創造行為の「現場」の痕跡、連続と続く卒業式・入学式の「現場」の痕跡、東大紛争安田講堂占拠の痕跡（これはもうほぼないかな？）……そして、時計台裏のスペースに残された往年の黒電話！ 今号の特集はそんな魅力いっぱいの安田講堂を大解剖しました。昨年秋から学内広報編集スタッフとなったF本さんの責任編集です。F本さん！ これからもさまざまな「東大の現場」を学内広報で伝えていってくださいねー！

以上、広報課・Sが制作の現場からお伝えしました。
(し)

◆表紙写真◆

「俯瞰」(撮影：工学系研究科機械工学専攻 デザインイノベーション社会連携講座 高野 将充さん)



七徳堂鬼瓦

特任教員が研究代表者になれるように

東京大学は2001年、定年を60歳から65歳に定年延長することをきめた。しかし、給与の仕組みは以前のままであったため、60歳以上の高給取りの教授を一人雇うには、若手教員のポジションを2つ減らすことになった。筆者は、若手雇用の仕組みとして企業、財団などの研究予算で教員を雇える特任教員という有期雇用の制度づくりを佐々木総長時代の総長補佐としてすすめ、公務員を辞職して特任教授の第一号になった。

当時、ヒトゲノム解読から大きなプロジェクトが始まり、それがうまくいけば次に発展できるとのんきに考えていた。ところが、特任教授という有期雇用になるととんでもない制度的な不備がわかってきた。文部科学省は、「研究代表者の給与を研究費からだしてはいけない」というのだ。他の研究者を雇用するのはいいが、自分の給与はだしてはいけないというのである。

今、各種の研究費はエフォート率で管理されている。ある研究費で雇用されている時に、別の研究をしてはいけないという。当然、研究代表者も特任教員の場合は、エフォート分はその研究費から支出しなくてはならない。ところが、文部科学省は代表者に給与をださない。これでは特任になったら研究代表者になれないということと同じである。エフォート率というのは従事した研究にかかる時間に対応して給与を払うというのが世界標準である。研究者代表者の給与が払えない助成金などありえない。

定年延長が進むにつれて、東大でも20代の正規教員はほとんどいなくなり、30代前半の正規教員も以前の半分である。若手研究者の主体は有期雇用の特任教員となっている。有期雇用でスタートした若手研究者が、代表研究者になってこそ、次の世代が育つはずである。最近の大型の募集「最先端次世代助成」でも代表者に給与支給できないという。文部科学省はこうした筋のとおらない規制はなくすべきだし、東大としてもきちんとした対応を急ぐべきである。濱田総長の勇断をお願いしたい。

児玉 龍彦（先端科学技術研究センター）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。関係部署および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1408 (2011.1.25)

2 ページ：枠内右下

理学系研究科・理学部の記述内 4・6 行目

(誤) 金色

(正) 黄色

53 ページ：枠内左列 10 行目

(誤) 定年

(正) 停年

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1409 2011年2月22日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL : 03-3811-3393

e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp/